

学生ら解決策を提案

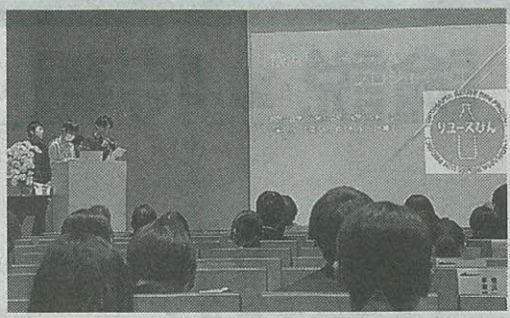
企業の環境課題に具体策

横浜

地球温暖化対策や持続可能な

開発目標（SDGs）、低炭素社会の実現に向けた企業の取り組みに若者の視点を取り入れようと、「企業・学生の環境課題解決マッチング会」が16日、横浜市神奈川区の神奈川大学で開かれた。写真。県内外の大学や高校6校から65人の学生らが参加し、市内企業8社が抱える環境課題への具体的な解決策を提案した。

同市と市地球温暖化対策推進協議会（会長＝松本真



哉横浜国立大学教授の主催。企業が提示した課題に対し、学生は当該企業を訪れるなどして調査、研究を実施して具体的な対応策をまとめ、この日、プレゼンテーションした。

日産自動車（同市西区）

は、超小型電気自動車「チヨイモビヨコハマ」を活用し、どのように車の魅力を伝えたり、購買を促進したりすればいいのか、と投げ掛けた。フェリス女学院大学の学生らは、2人乗りの特性を生かし、婚活イベントでの利用を提案。マッチングした男女でのドライブデートに活用するなどの具体策を示し、「未婚率抑制とチヨイモビの実用化を目指す」とアピールした。

規定時間が過ぎたチキンの廃棄によるフードロスなどの課題を抱える日本ケンタッキー・フライド・チキン（同区）に対しては、東洋英和女学院大の学生らが提言。食べられるにもかか

わらず廃棄せざるを得ない商品をフードバンク横浜に提供することで、「市内の貧困問題の撲滅」を呼び掛けた。

司会で同協議会の佐藤一子事務局長は「いい案は相談をしながら実現すればいいと思う」と話していた。

（柏尾 安希子）